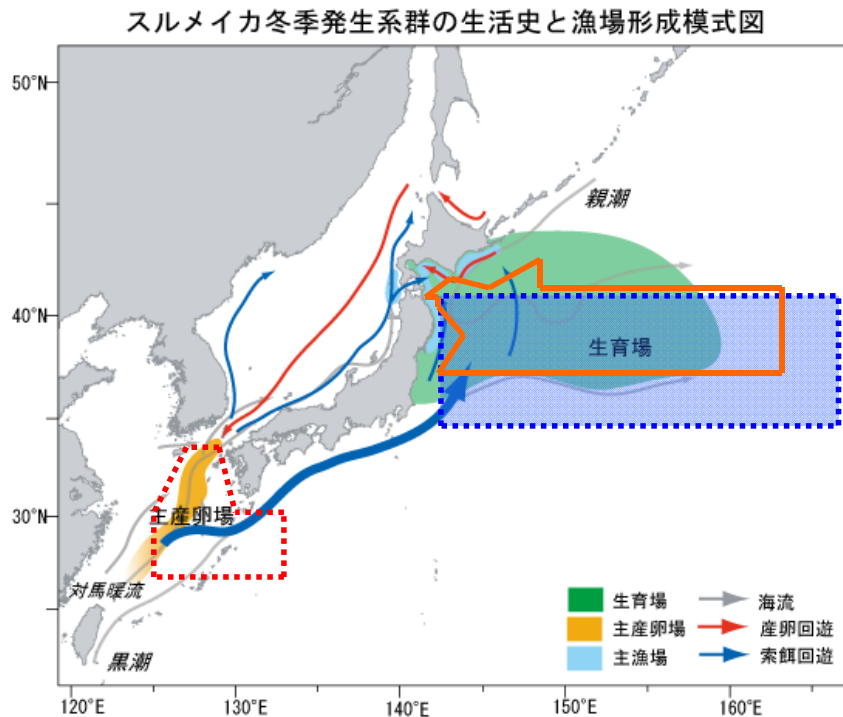




スルメイカ冬季発生系群 平成27年度資源評価結果

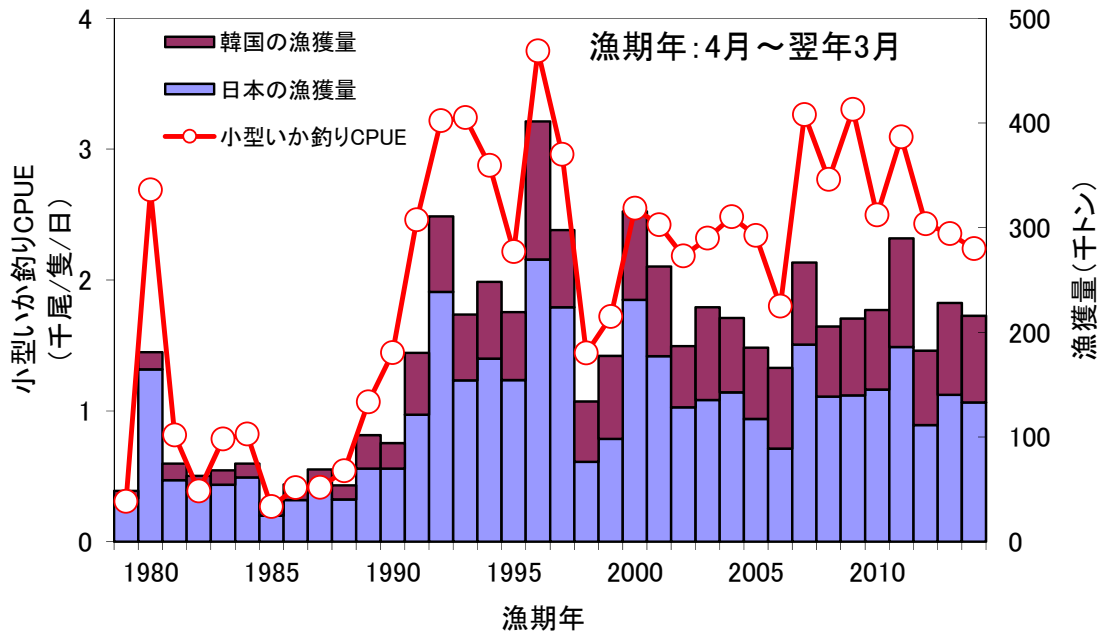
1

生態：分布・回遊・漁場



2

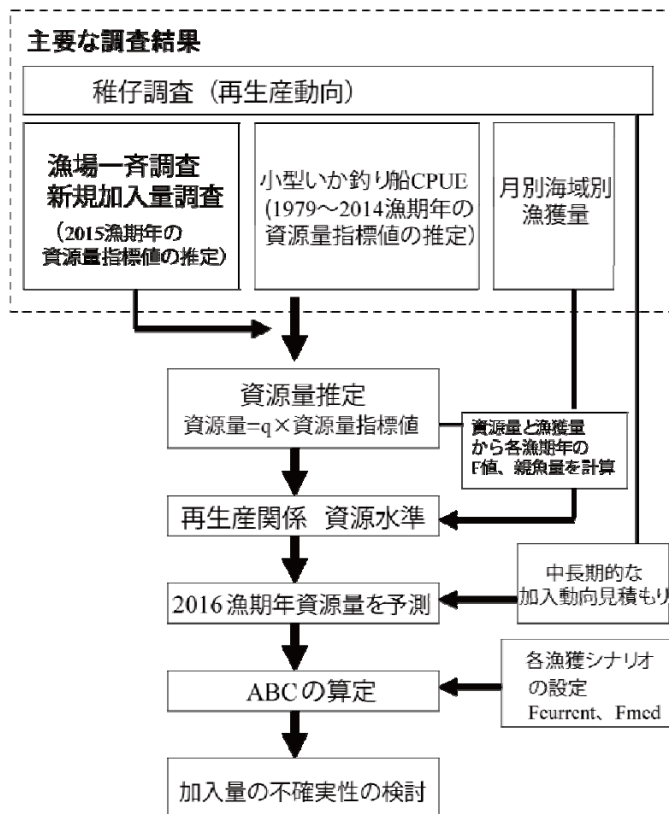
漁業の状況：漁獲量・資源量指標値の推移



- 1980年代は低水準が継続、1989年以降増加
- 2014年漁獲量 21.6万トン(近年並み)
- 小型いか釣り船CPUE 2.2千尾/隻/日(近年並み)

3

資源評価の流れ

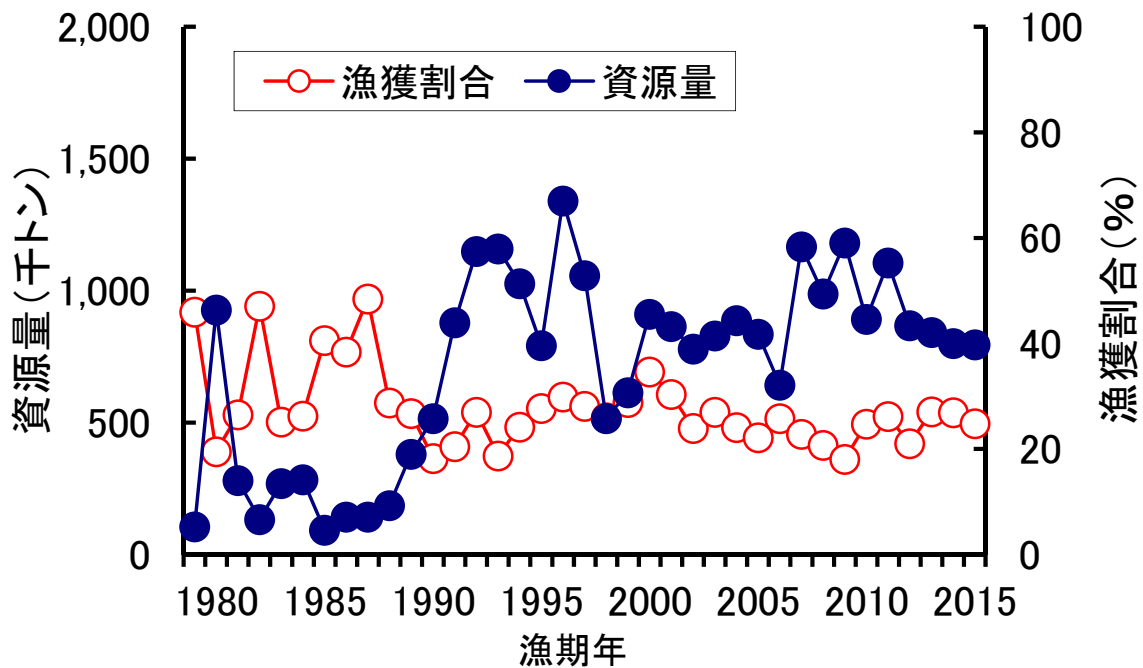


資源量推定
1979～2014年：
小型いか釣り船CPUE

2015年：
調査船調査結果から推定

4

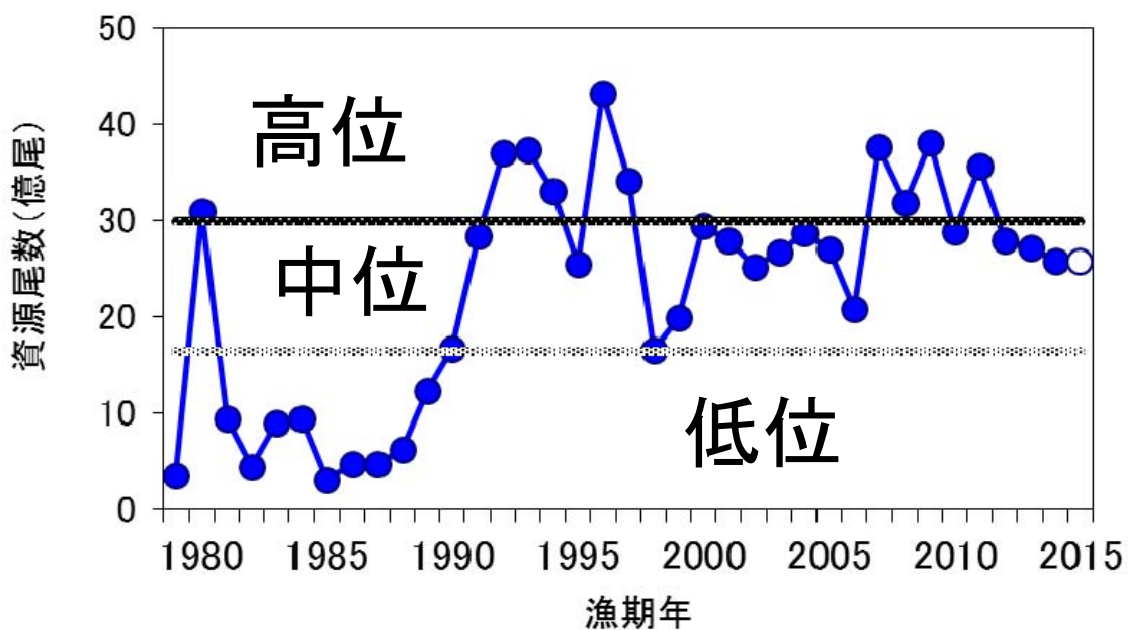
資源の状態：資源量と漁獲割合の推移



- 資源量指標値(小型いか釣り船CPUE)から資源量を計算
- 2011年以降は補正值(震災の影響)
- 2015年の資源量(80万トン)は調査結果から推定

5

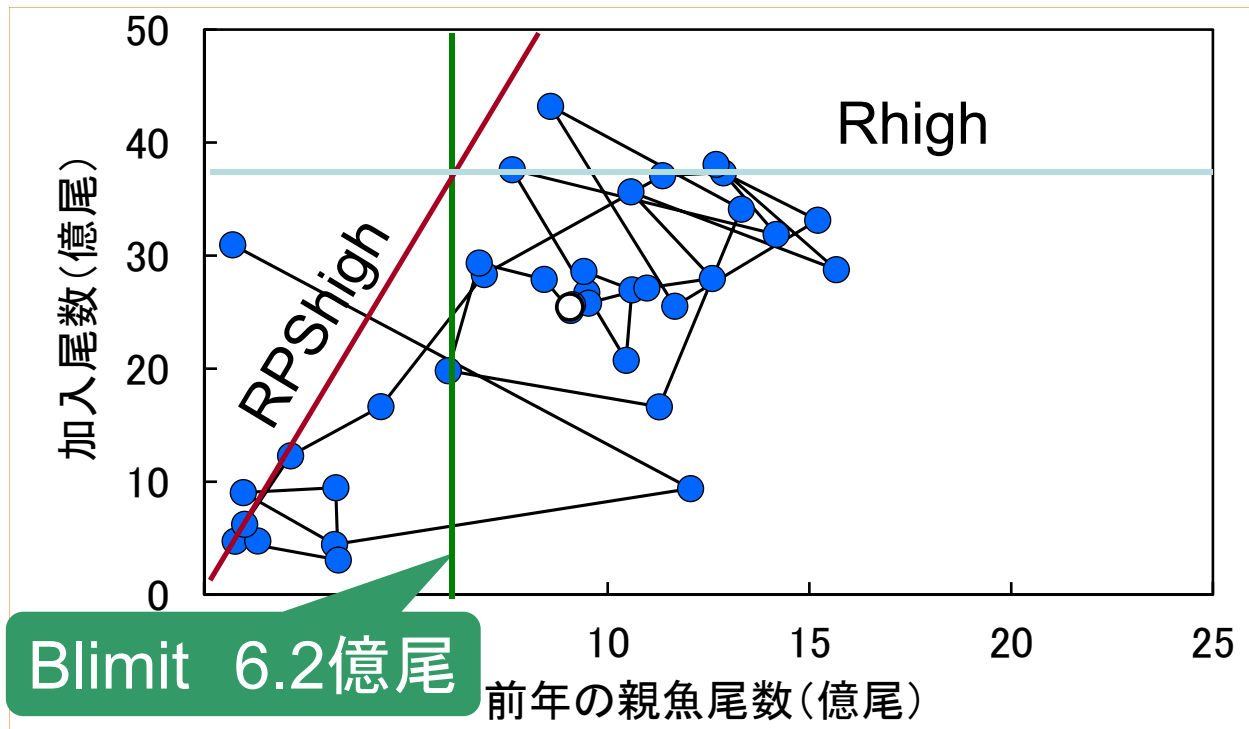
資源の状態：資源水準・動向



水準：中位 動向：減少

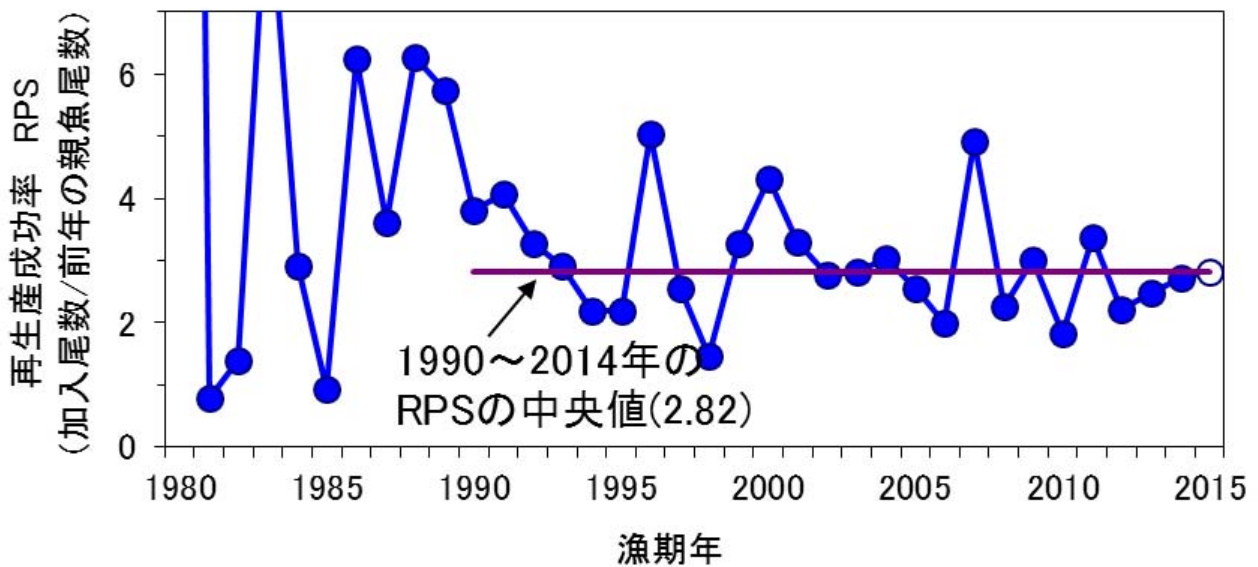
6

再生産関係とBlimitの設定



7

今後の加入量の見積もり



- 1990年以降の温暖期は好適な海洋環境 (Sakurai et al.2000)
- 調査結果からも、海洋環境の不適な兆候はみられない
- →1990年以降の好適な時期の再生産成功率の中央値を将来予測に使用

8

資源評価のまとめと2016年漁期ABCの算定方法

● 資源評価

- 資源尾数は中位・減少(昨年度:中位・横ばい)
- 2015年漁期終了時の親魚尾数(9.4億尾) > Blimit(6.2億尾)
- $F_{current} < F_{med}$

● ABC算定

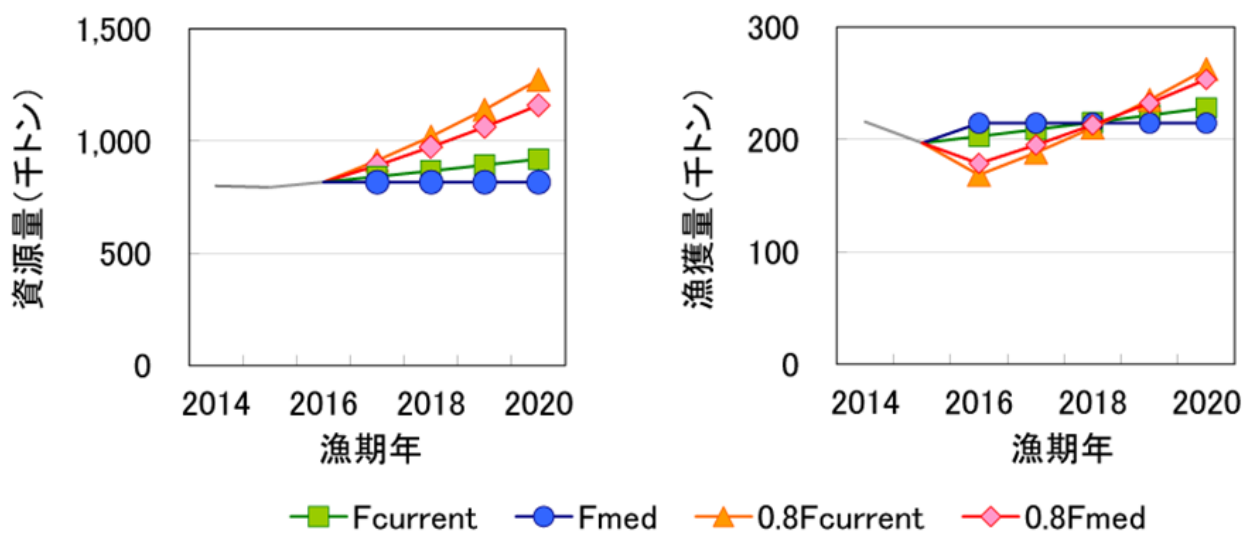
- 規則 1-1)-(1)
- $F_{2015} = F_{current}$ (2012年~2014年の平均)
- 2016年資源尾数 = RPS(1990~2014年の中央値) × 親魚尾数

● 管理基準

- 現状の漁獲圧を維持する $F_{current}$
- 親魚量を維持する F_{med}

9

各シナリオによる将来予測



シナリオ

$F_{current}$: 近年3年間の平均的な漁獲圧

F_{med} : 2014年漁期終了時の親魚量維持

10

2016年漁期ABC

漁獲シナリオ (管理基準)	Limit/ Target	F値 (Fcurrent との比較)	漁獲 割合	将来漁獲量		評価		2016年 漁期 ABC (千トン)
				5年後 (千トン)	5年 平均 (千トン)	2014年 親魚量 を維持 (5年後)	Blimitを 維持 (5年後)	
現状の漁獲 圧の維持* (Fcurrent)	Limit	0.41 (1.00 Fcurrent)	25%	100 ~ 568	255	60%	81%	203
	Target	0.33 (0.80 Fcurrent)	21%	116 ~ 654	255	81%	93%	169
親魚量の 維持* (Fmed)	Limit	0.44 (1.07 Fcurrent)	26%	94 ~ 534	253	53%	75%	215
	Target	0.35 (0.86 Fcurrent)	22%	112 ~ 631	256	76%	91%	179

* を付したシナリオは中期的管理方針に合致する